

小麦「さとのそら」の晩播栽培方法



●12月上旬播種

11月上旬の適期播ができなかった場合の栽培方法です。

- 基肥窒素量：8kg/10a
- 播種量：11～12kg/10a（適期播の約1.5倍）
- 追肥（窒素量：4kg/10a）は3月中旬に施用しましょう！
- 適期播より成熟期が約5日遅く、収穫時期により降雨にあいやすくなるので刈り遅れに注意が必要です！

播種時期	10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月		
	旬	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
（12月上旬） 晩播	生育ステージ					出芽						最高分けつ期			茎立期			開花期						成熟期			
	主な作業		排水対策			基肥播種 除草剤散布				麦踏み				追肥				赤かび病 防除						収穫 乾燥 調製			
（11月上旬） 適期播	生育ステージ			出芽								最高分けつ期			茎立期			開花期						成熟期			
	主な作業	排水対策		基肥播種 除草剤散布					麦踏み				追肥				赤かび病 防除						収穫 乾燥 調製				

栽培のポイント

排水対策

- 栽培圃場を団地化して地域排水に努めましょう。
- 地下水位は50cm以下を目標としましょう。
- サブソイラ等で本暗渠に直行する方向に2～3m間隔で弾丸暗渠を施工しましょう。
- 明渠を掘削し、排水路へ連結させましょう。

基肥

- 土壌のpHが6.5～7.0となるよう石灰で矯正しましょう。
- 窒素：リン酸：加里＝8：15：12kg/10a

播種

- 播種時期が12月上旬の場合
- 播種量：11～12kg/10a（適期播の約1.5倍）
- 種子消毒を行いましょう。
- 播種深：2～3cm

除草

- 雑草が多い場合は、耕起前に非選択性除草剤を散布しましょう。
- 播種前の碎土は丁寧に行い、播種後に土壌処理剤を散布しましょう。
- 雑草が多発する場合、草種に応じた茎葉処理剤を散布しましょう。

麦踏み

- 1月中旬～3月上旬に本葉3葉期を過ぎてからローラー等を用い2～3回行いましょう。

追肥

- 水田転換畑や地力の低い畑では、追肥による増収効果が特に高い。このため、茎立期の約10日前（3月中旬頃）に窒素成分で4kg/10a施用しましょう。
- 出穂期の葉色が淡い場合は、粒張りを良くし、タンパク質含有率を高めるため、出穂期に窒素成分で1～2kg/10aを追肥しましょう。ただし、出穂期以降の窒素過多は、等級を低下させる危険性があります。

赤かび病の防除

- 開花期（出穂後約7～10日）に必ず薬剤を散布しましょう。

収穫

- 収穫は、穂首が黄化してから約3日後、穂が湾曲し始め、穀粒水分が30%程度となる頃を目安に行いましょう。
- 適期播より成熟期が約5日遅くなるため、より降雨にあいやすくなります。刈り遅れると穂発芽や外観品質の低下を招く危険性がより高まるので、適期収穫に努めましょう。

乾燥・調製

- 穀粒水分が30%以上の場合は、穀粒の循環が悪くなる可能性があるため、乾燥機の張込量を80%以下にしましょう。
- 高温乾燥は品質の低下を招くため、乾燥始めは通風乾燥を行い、徐々に送風温度を上げましょう。送風温度は、穀粒水分20～30%では40℃未満、20%以下では60℃未満にしましょう。
- 乾燥仕上げ水分は、12.5%以下にしましょう。
- 調製は2.2mmの網目で丁寧に行い、麦稈・ノゲを十分に取り除きましょう。